

第5学年 国語科学習指導案

2組 計24人（男子10人，女子14人）

指導者 横濱 智子

1 単元 人物の考え方や生き方をとらえよう（教材「わらぐつの中の神様」光村5年上）

2 単元について

(1) 単元の価値

本学級の子どもたちは、これまでに「新しい友達」で、人物の言動を表す叙述にそって心情の変化を読み取り、友達と話し合う学習を行ってきた。また、「千年の釘にいどむ」で、叙述をもとに、自分の思いや考えの根拠をはっきりさせて読んだり、テーマを決めて本を読み、内容や感想を交流し、読書の世界を広げ深める学習をしてきている。

そこでここでは、文章構成、人物の行動描写、せりふ等に注目しながら、人物の考え方や生き方について読み深め、自分なりの感想をもったり、それを友達と話し合うことで、自分自身を見つめたりすることをねらいとした単元を設定した。

教材「わらぐつの中の神様」は、祖母おみつとマサエの心の触れ合い、使う人の身になってわらぐつを編んだおみつさんと、見せかけでない本当の価値を見抜いた大工さんの心の通い合いを描いた物語である。異性に対する意識が高まり、あこがれの気持ちを抱くようになるこの期の子どもたちにとって、主人公の真っ直ぐで純粋な心や、大工さんの深い思いやりの心が通い合ったほのぼのとした美しさは共感しやすく、自分の考えをもちながら豊かに読むことに適した内容である。また、見た目の良し悪しで物事の判断をしがちである子どもたちにとって、本当に大切なものとは何かを見つめ、考えることができる内容であるといえる。さらに、現在 - 過去 - 現在という作品の構成や、それに伴う場面の展開、語り手の効果等、読者を引きつける多くの要素をもち、作品を多面的に考えさせるのに適した教材であるといえる。

本単元で子どもたちは、登場人物の行動描写や会話等に注目しながら読むことで、その人物の考え方や生き方について自分なりの考えをもつことができる。また、教材文の構成や場面の展開、小道具（わらぐつ、雪げた）の役割をとらえることで、なぜ解きのようなおもしろさを味わいながら読み深めることができる。さらには、語りの中に使われた方言の効果や文章表現に着目することで、イメージを膨らませながら読むことができると考える。

ここでの学習は、今後、これまでの学習経験を踏まえ自分の読みのめあてをもって読み、友達と話し合ったり、考えを整理して書いたりするなど、主体的に読み進めていく学習へと発展していく。

(2) 単元の目標

物語の温かさを感じ、心に残る言葉や文章、情景や場面を味わいながら読もうとしている。

【国語への関心・意欲・態度】

登場人物の考え方や生き方について叙述に即して読み、自分なりの考えをもつことができる。

テーマに合った本や同一作者の本を読み、自分の考えを深めることができる。

【読む能力】

現在 - 過去 - 現在という文章構成や表現方法の工夫を理解することができる。

【言語についての知識・理解・技能】

(3) 子どもの実態

ア 教科全般に関する実態

本学級の子どもたちは、学習に関する興味・関心は高く、意欲的に学習に臨んでいる子どもが多いといえる。また、自分の考えを進んで発表したり、友達と考えを交流したりすることを楽しいと感じている子どもも多い。その反面、自分の考えをもつことができず、積極的に活動に関わるのが難しい子どももいるため、一人一人が自分の考えをもつことができるような手立てが必要である。

また、長文を読むことに抵抗のある子どももあり、読み取りの力、読書への意欲や読むジャンルの広がりには個人差がとても大きい。

イ 本単元の内容に関わる実態

友達や周囲の人の考え方や生き方にひかれた経験。

ある(16名) ない(8名)

手作りのものにいいなと思った経験、

ある(24名)

手作りのよさ

- ・ 愛情がこもっている
- ・ 一つしかないものだから、特別な気がする。
- ・ あたたかい感じがする。
- ・ 古くなってもなぜか捨てられない。

語句の理解

- ・ わらぐつ (7名)
- ・ 雪げた (1名)
- ・ 鼻緒 (2名)
- ・ つま皮 (0名)
- ・ あかぎれ (18名)
- ・ がん木 (0名)
- ・ (玄関の) たたき (1名)

「わらぐつの中の神様」という題名からどんなことを想像しますか。

- ・ わらぐつの中に神様が住んでいて、幸せをくれる。(13名)
- ・ 大切にしているものに神様が住みついている。(7名)

本学級の子どもたちは、国語科の学習で物語や説明文を読み、主題や要旨をとらえたり、話し合ったりする学習を楽しんでいる子どもが多い。その理由として、教科書に書かれていることの他に大きなテーマが隠れていることを読み取ったり、友達と話し合いながら大事なことに気付いていく過程が楽しいと答えている。高学年になり、長文の読み取りには個人差が見られ、叙述をもとに読み取る際、何に着目して読み進めていけばよいか戸惑っている子どもや、どのようにまとめたらいかがかわからない子どもも見られる。そのため、学習の進め方を明確に示したり、読みの視点を明らかにしたりするなどの手立てが必要である。

3 指導に当たって

本単元の指導にあたっては、子ども一人一人が学ぶことを楽しむことができるように、以下のような点に留意して指導していく。

① 研究の視点1(子ども一人一人が読む目的をもち、読みたいと感じる授業づくり)

- ・ つかむ段階で、実物のわらぐつや雪国の様子がわかる写真、道具等を提示することで、物語の舞台である雪国の暮らしに興味をもち、読む意欲を高めることができるようにする。
- ・ 単元の最後に「ものにこめられた思いについて語り合おう」という言語活動を設定することで、目的意識をもって読み進めることができるようにする。また、作者の他の作品も読み、同じテーマはないか探ってみようという読書への意欲も高めることができるようにする。

② 研究の視点2(子ども一人一人が自分の読みの高まりを実感できる授業づくり)

- ・ 深める段階で、登場人物の考え方や生き方を読み取る際に、人物ごとに整理して書き込めるようなワークシートを作成することで、読みの振り返りに生かすことができるようにする。また、一人調べの際は、「誰について読む」という視点を提示したり、人物像がはっきり表れるように構造的な板書の工夫をしたりすることで、読む視点を明確にとらえることができるようにする。
- ・ 一人調べの際には、読みの能力に応じたワークシートを2から3種類準備することで、個に応じた読み取りができるようにする。
- ・ 友達との交流の際には、叙述をもとに人物に同化しながら「自分だったら」という視点からも話し合うことで、人物の生き方や考え方についての読みを深めることができるようにする。
- ・ 心の動きがよくわかる表現については、動作化や音読を取り入れることで、人物の心情に迫ったり、心の動きについて読み味わうことができるようにする。

③ 研究の視点3(子ども一人一人が読むことを楽しみ、学んだことを生活に広げていく学習の在り方)

- ・ 自分がこれまで読んできた本の中にも、「ものにこめられた思い」が題名や主題となって描かれた本はなかったか読書カードで振り返らせたり、図書館で探して読んだりする活動につながるようにする。

4 指導計画（全8時間）

は研究の視点に関する内容（◇は視点，◇は視点） 評価項目及び評価方法

過程	時間	主な学習活動	教師の指導
つかむ	1	1 雪国の様子や情景について考え、物語の舞台をイメージする。	◇ 実物のわらぐつや、雪国の様子を写した写真、道具などを提示し、読みたいという意欲を高めることができるようにする。 ◇ ものにこめられた思いが描かれた作品を読んで、そこに描かれたテーマを話し合おうという設定で学習を進めていくことを伝え、読む目的意識をもてるようにする。 教材文の3つの場面構成を考えることで、現在 - 過去 - 現在という構成や展開のおもしろさに気付くことができるようにする。
		2 単元の学習課題をつかみ、学習計画を立てる。 ものにこめられた思いが描かれた作品を読んで語り合おう。	
深める	4 (本時3/4)	3 全文を読み、「わらぐつの中の神様」は大きく3つの場面に分かれることをつかむ。	物語の温かさを感じ、読みたいという意欲を高めることができたか。(観察)【国語への関心・意欲・態度】 現在 - 過去 - 現在という物語の構成とその効果を感じながら読むことができる。(ワークシート・発表)【読むこと】 ◇ 場面毎に読み取る際、線を引いたり、関係づけたり、書き込んだりしながら、一人調べを進めやすいワークシートを工夫し活用する。その際、支援が必要な子どももいることが想定されるため、2から3種類のワークシートを準備しておくことで、どの子どもも自分の考えをもつことができるようにする。
		4 「わらぐつの中の神様」を場面毎に読み、人物の考え方や生き方について読み取る。 一の場面（現在） ・ わらぐつを通したおばあちゃんやマサエのやりとり 二の場面（過去） ・ おみつさんと雪下駄 ・ おみつさんの編んだわらぐつと、おみつさんの人柄 ・ わらぐつを買ってくれた大工さんとおみつさんの心の触れ合い（本時） 三の場面（現在） ・ おばあちゃんの話聞いたマサエの心の変化	
味高	1	5 全文を読み、心に残った言葉や表現についてまとめ、話し合う。	題名について話し合うことで、物語の主題をとらえ読み深めたことをもとに、自分の生活を見つめることができるようにする。 子どもたちがこれまで学習してきた教材「一つの花」「お手紙」「白いぼうし」等や、同一テーマの短編作品を読み、題名（もの）にこめられた思いについて、話し合うことができるようにする。
わめ		6 「神様」とは何か話し合う。 自分たちの生活もみつめよう	
まひろめげる	2	7 「ものにこめられた思い」について描かれた作品を読み、話し合う。	テーマに合った本や同一作者の本を読み、自分の考えを深めることができたか。(発表)【言語についての知識・理解・技能】

